



東京製綱株式會社
TOKYO ROPE MFG.CO.,LTD.

2009年3月期 第2四半期決算説明会

2008年11月18日

目次

09年3月期 第2四半期決算の概要

09年3月期 見通し

ビジネスの現状と今後の戦略

09年3月期 第2四半期決算の概要

09年3月期見通し

ビジネスの現状と今後の戦略

2009年3月期 第2四半期決算ポイント

二ケタ増収増益、期初計画も上回る

売上高

390億5200万円（前年同期比 +12.6%）

価格改定効果と中国本格稼動が奏功

営業利益

14億3100万円（前年同期比 +15.3%）

太陽電池関連製品(ソーワイヤ・ワイソー)が順調に伸長

1・2Q純利益

2億5700万円（前年同期比 +117.8%）

2009年3月期 第2四半期決算ハイライト

(単位:百万円)

	08/3 1・2Q	売上 高比	09/3 1・2Q	売上 高比	前年同期比		期初 計画	増減
売上高	34,693	-	39,052	-	+4,359	112.6%	38,500	+552
営業利益	1,241	3.6%	1,431	3.7%	+190	115.3%	1,300	+131
経常利益	911	2.6%	1,160	3.0%	+249	127.3%	1,000	+160
1・2Q 純利益	118	0.3%	257	0.7%	+139	217.8%	300	△43

主要製品の状況（09年3月期1・2四半期累計）

各製品とも堅調な需要を維持

		08/3 3・4Q	→	09/3 1・2Q	
鋼索鋼線	ロープ・ワイヤ	◎		◎	需要堅調で 材料の価格高騰にも対応
	スチールコード	△		○	中国子会社が本格稼動 ソーワイヤ・国内タイヤコード増
開発製品	産業機械	◎		◎	ワイヤソーは前年同期比 大幅増加
	道路安全施設	○		○	安定した受注は確保

セグメント別の状況（売上高）

鋼索鋼線： 価格改定効果と中国売上増が牽引

その他： 燃料販売の価格改定が影響

（単位：百万円）

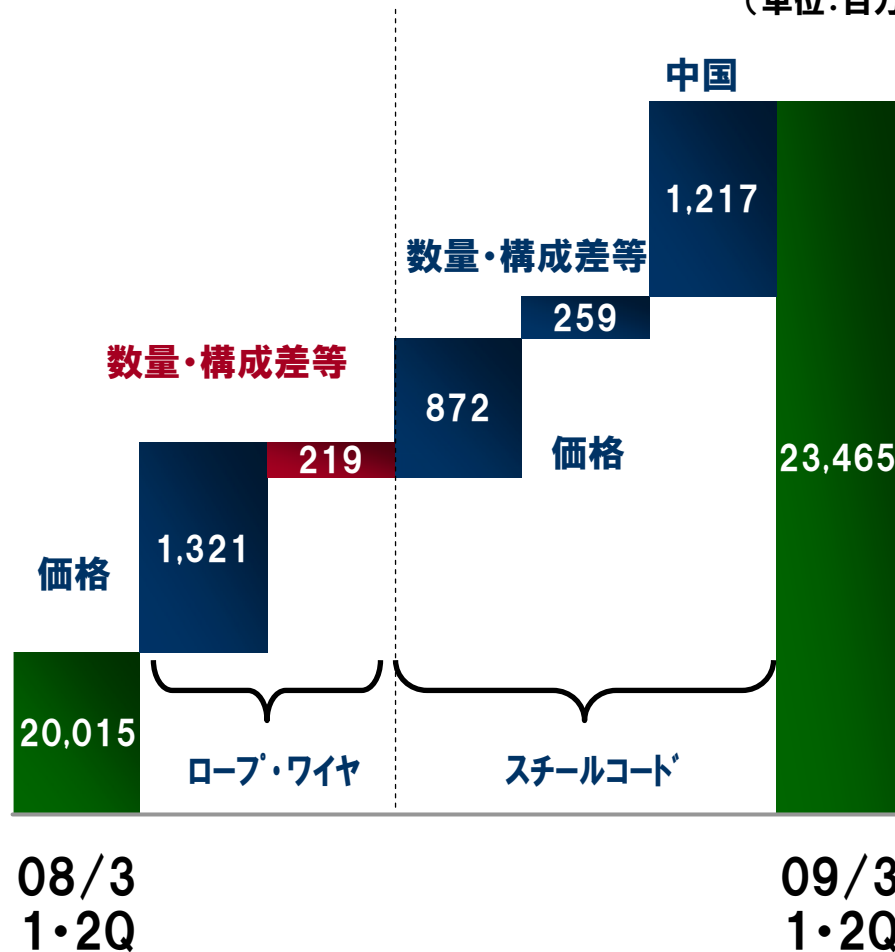
	08/3 1・2Q	構成比	09/3 1・2Q	構成比	前年同期比	
鋼索鋼線	20,015	57.7%	23,465	60.1%	+3,450	117.2%
開発製品	9,652	27.8%	9,659	24.7%	+7	100.1%
不動産	698	2.0%	704	1.8%	+6	100.9%
その他	4,326	12.5%	5,222	13.4%	+896	120.7%
合計	34,693	100.0%	39,052	100.0%	+4,359	112.6%

増減要因分析（売上高）

鋼索鋼線

ロープ・ワイヤ、スチールコード・ソーワイヤ

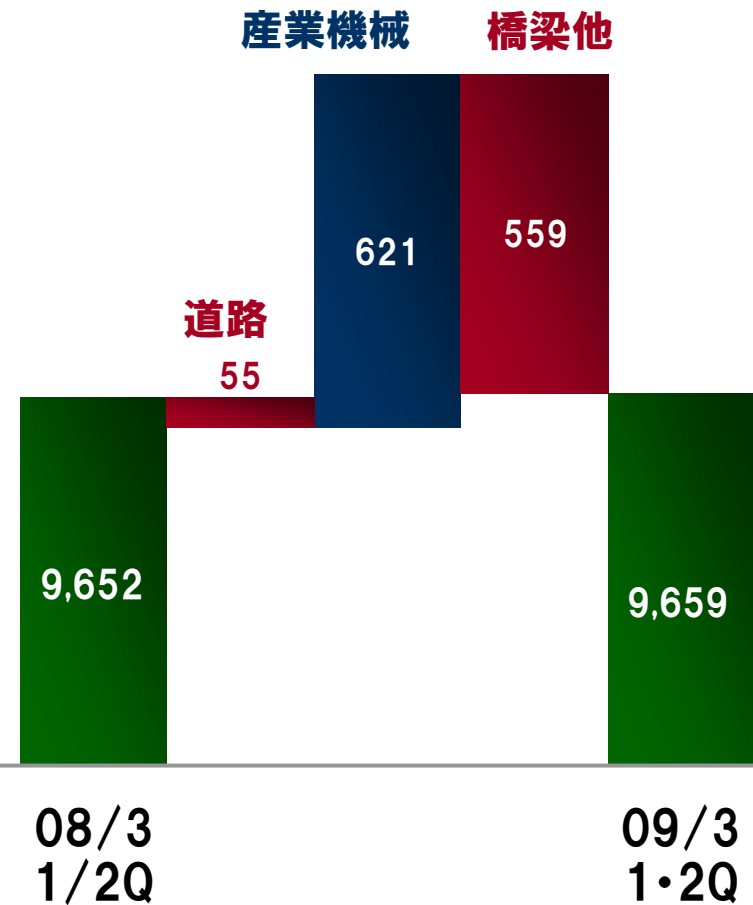
（単位：百万円）



開発製品

道路安全施設・産業機械・橋梁など

（単位：百万円）



セグメント別の状況（営業利益）

鋼索鋼線： スチールコード部門の需要増が貢献

**開発製品： 産業機械(ワイヤソー)は順調だが
橋梁部門で売上減・不採算物件あり**

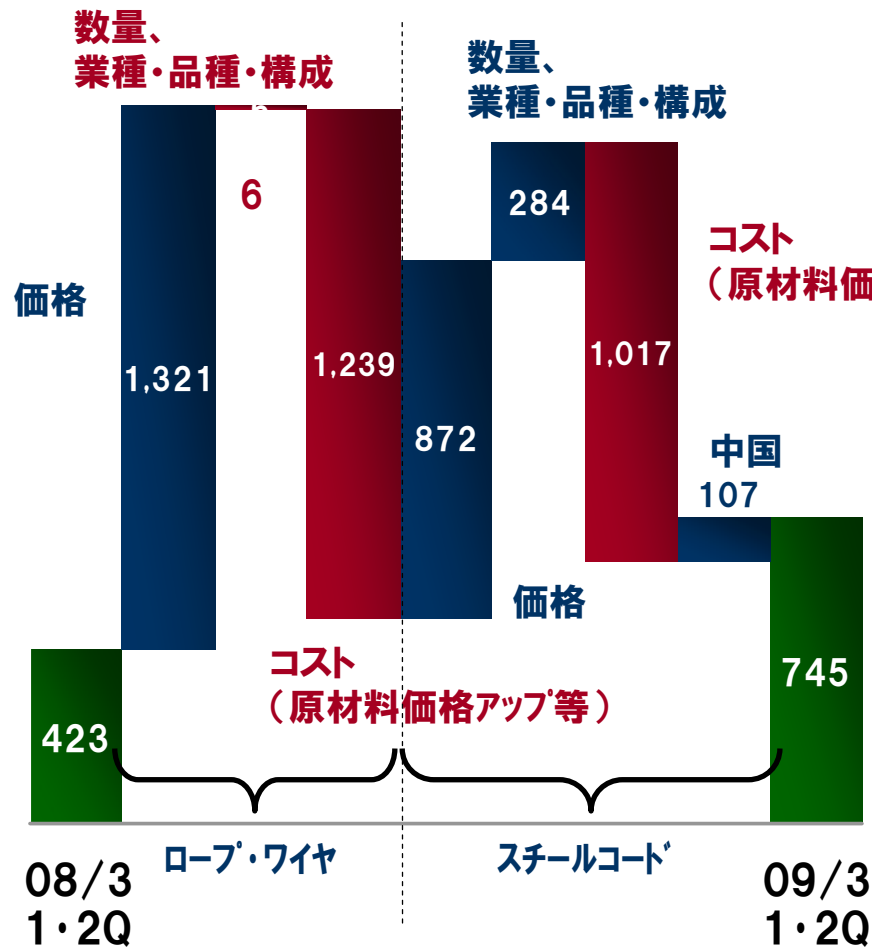
（単位：百万円）

	08/3 1・2Q	構成比	09/3 1・2Q	構成比	前年同期比	
鋼索鋼線	423	34.1%	745	52.1%	+322	176.1%
開発製品	194	15.7%	20	1.4%	△174	10.3%
不動産	407	32.8%	405	28.4%	△2	99.5%
その他	215	17.4%	259	18.1%	+44	120.5%
合計	1,241	100.0%	1,431	100.0%	+190	115.3%

増減要因分析（営業利益）

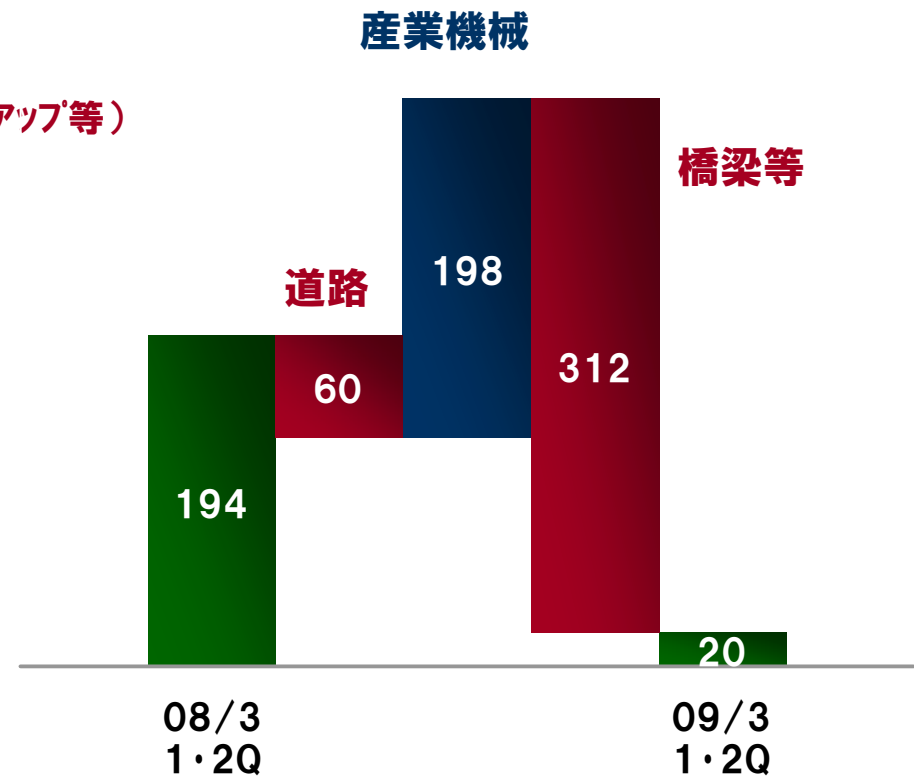
鋼索鋼線

ワイヤ・ワイヤロープ、スチールコード、ソーワイヤ



開発製品

道路安全施設、産業機械、橋梁など



キャッシュ・フロー

収益力向上でフリー・キャッシュフローが大幅改善

営業活動：収益拡大により改善

財務活動：借入金返済＋配当金支払

	08/3 1・2Q	09/3 1・2Q	08/3
現金及び現金同等物の期首残高	1,051	1,891	1,051
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,529	1,962	4,314
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,060	△1,909	△5,417
フリー・キャッシュ・フロー	△531	53	△1,103
財務活動によるキャッシュ・フロー	351	△991	1,934
現金及び現金同等物の期末残高	878	955	1,891

09年3月期 第2四半期決算の概要

09年3月期見通し

ビジネスの現状と今後の戦略

2009年3月期 見通し

売上は需要弱含みも価格改定と中国効果で増額修正
 利益はロープ・ワイヤ、スチールコードの事業環境悪化懸念で修正

売上高 : 860億円 (前期比+9.6%)

営業利益 : 41億円 (前期比+1.0%)

(単位:百万円)

	08/3 実績	売上高 比	09/3 見通し	売上高 比	前年比		期初 計画
売上高	78,444	-	86,000	-	+7,556	109.6%	83,000
営業利益	4,061	5.2%	4,100	4.8%	+39	101.0%	4,400
経常利益	3,338	4.3%	3,500	4.1%	+162	104.9%	3,800
当期純利益	1,131	1.4%	1,700	2.0%	+569	150.3%	1,800

主要製品見通し (09年3月期)

下期はロープ・ワイヤ、タイヤコード需要が弱含み

		09/3 1・2Q	→	09/3 3・4Q	
鋼索鋼線	ロープ・ワイヤ	◎		○	建設需要等の減速を懸念
	スチールコード	○		△	ソーワイヤは堅調だが タイヤコード弱含み
開発製品	産業機械	◎		◎	ワイヤソーは通年増加
	道路安全施設	○		○	下期は前期並の受注見込む

2009年3月期 見通し（セグメント別売上高）

鋼索鋼線491億円(+16.5%)、開発製品250億円(△2.1%)

鋼索鋼線：中国子会社が本格拡大・ソーワイヤも増加

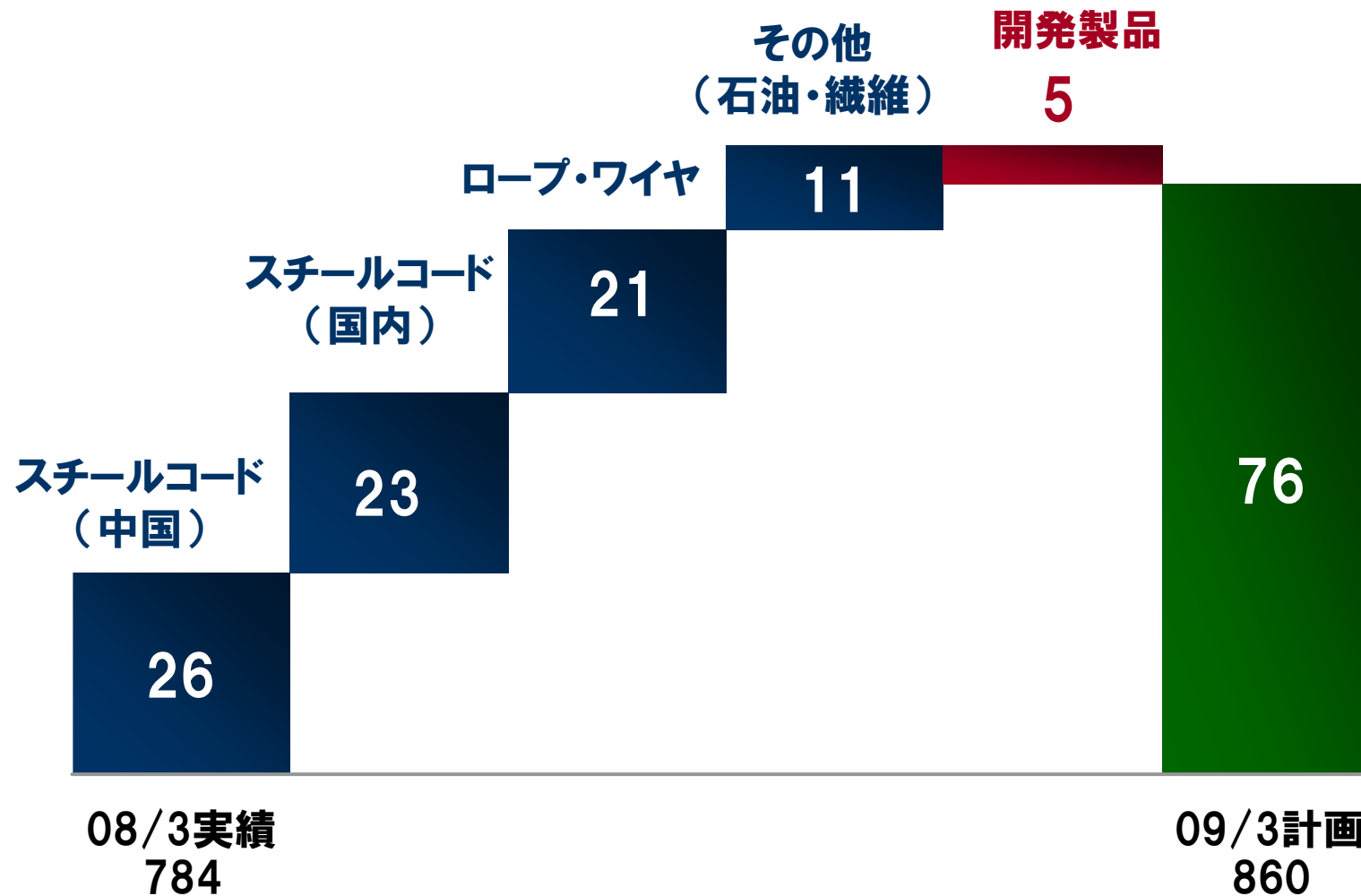
開発製品：産業機械(ワイヤー)伸長も橋梁関連減少

(単位：百万円)

	08/3 実績	構成比	09/3 見通し	構成比	前年比		期初 計画
鋼索鋼線	42,136	53.7%	49,100	57.1%	+6,964	116.5%	46,000
開発製品	25,544	32.6%	25,000	29.1%	△544	97.9%	25,600
不動産	1,398	1.8%	1,400	1.6%	+2	100.1%	1,400
その他	9,365	11.9%	10,500	12.2%	+1,135	112.1%	10,000
合計	78,444	100.0%	86,000	100%	+7,556	109.6%	83,000

増減見通し分析 (09年3月期 売上高)

(単位:億円)



2009年3月期 見通し（セグメント別営業利益）

対前年比微増（営業利益41億円）
需要減懸念で鋼索鋼線で修正

鋼索鋼線： 中国スチールコード事業が操業本格化で収益改善へ

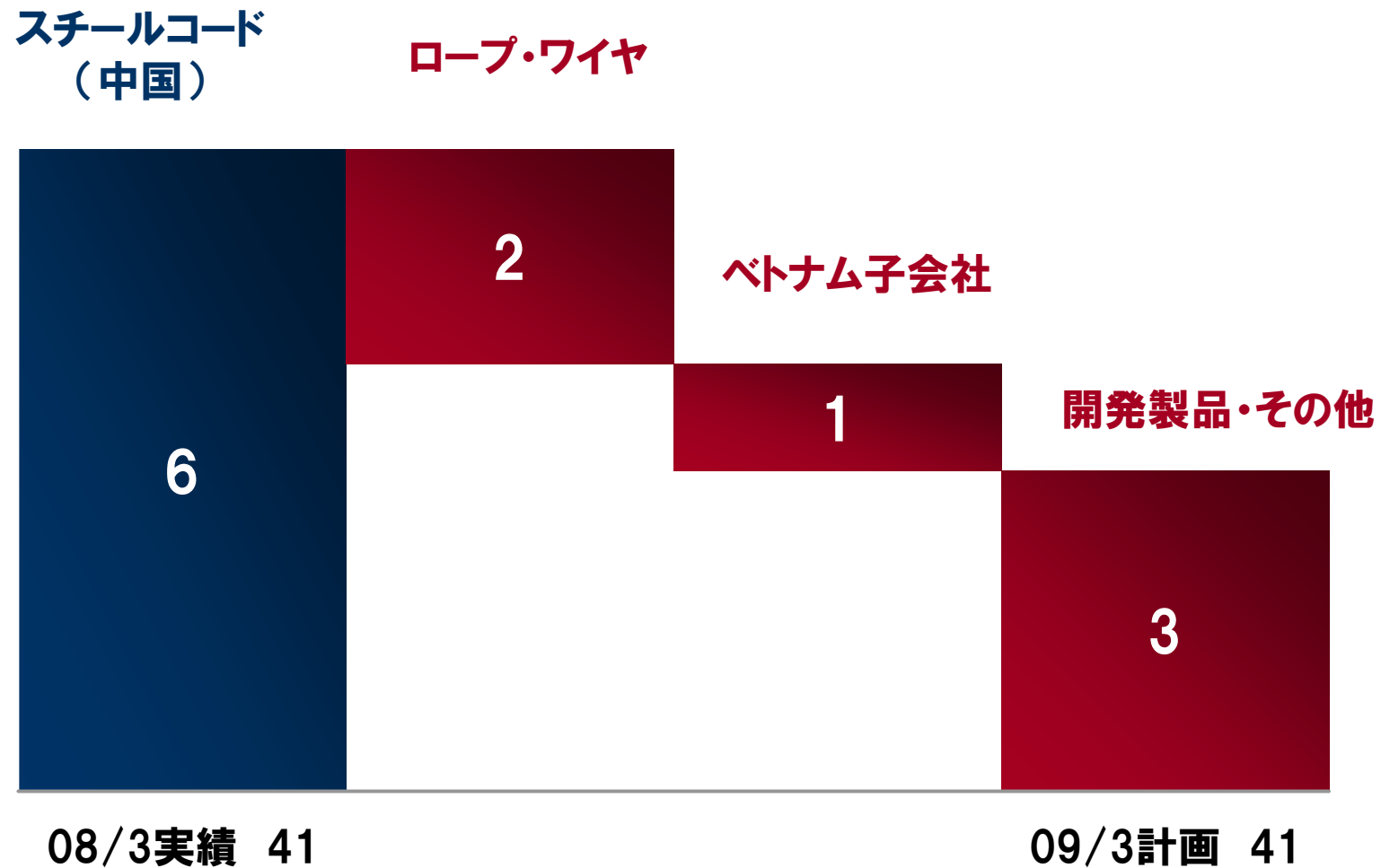
開発製品： 産業機械堅調続くも、橋梁関連の悪化が影響

（単位：百万円）

	08/3 実績	構成比	09/3 見通し	構成比	前年比		期初 計画
鋼索鋼線	1,300	32.0%	1,600	39.0%	+300	123.1%	1,850
開発製品	1,560	38.4%	1,300	32.7%	△260	83.3%	1,400
不動産	811	20.0%	800	19.5%	△11	98.6%	800
その他	388	9.6%	400	9.8%	+12	103.1%	350
合計	4,061	100.0%	4,100	100%	+39	101.0%	4,400

見通し分析（09年3月期 営業利益）

（単位：億円）



設備投資額・減価償却費・研究開発費

**設備投資額： 期初計画に変更なし
引き続き能力増強＋更新投資を実施**

(単位:百万円)

	08/3期		09/3期	
	ステップアップ 8・7	実績	ステップアップ 8・7	見通し
設備投資額	3,500	3,684	4,000	3,900
減価償却費	3,600	3,639	3,650	3,700
研究開発費	900	856	900	900

中国 ソーワイヤ
和歌山分工場
ベトナム ロープ

09年3月期 第2四半期決算の概要

09年3月期 見通し

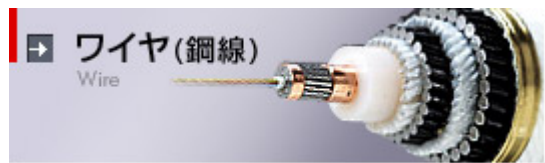
ビジネスの現状と今後の戦略

当社の主力製品(ロープ・安全関連＋太陽電池関連)



(鋼索鋼線)

伝統的主力製品
(クレーン用ロープ・エレベーターロープなど)



(鋼索鋼線)

伝統的主力製品
(電力・通信ケーブルなど)



(鋼索鋼線)

自動車タイヤ補強材
太陽電池シリコン切断用ソーワイヤ



(開発製品)

安全施設・鋼構造物・橋梁
(道路・法面・積雪、橋梁・港湾関係など)



(開発製品)

各種産業用機械
(「**太陽電池シリコン切断用ワイヤソー**」含む)

基本戦略：成長＋差別化＋ビジネスモデルの変換

成長市場捕捉

- ・中国スチールコード
- ・高級エレベータロープ
- ・ソーワイヤ・ワイヤソー

差別化商品(工法)投入

- ・高強度橋梁用ケーブル
- ・高強度ロープ
- ・半被覆ロープ
- ・落石防護工
- ・アクリル板遮音壁
- ・タフコーティッド製品

ビジネスモデルの変換

- ・ソーワイヤ・ワイヤソーのシナジー
＋ シリコン結晶製造設備
- ・ロープ診断システム＋半被覆ロープ

安全・環境・防災・省エネ

競争力の強化

ロープ流通再編

統合システム
(Web受注)

最新設備導入
(伸線機・製綱機)

アメーバ経営の推進
(ロープ・ワイヤ部門)

技術力強化
(研究所の強化)

風土改革・人材育成
(技能度評価システム)

中長期安定成長を実現するために

グローバルな視野から成長市場へ参入中

**省エネ(太陽電池)関連
(ソーワイヤ/ワイヤソー)**

**新興国の成長需要
(エレベーターロープ、タイヤコード)**

**資源国インフラ整備
(橋梁用ケーブル、落石防護工)**

当社製品の需要状況

世界的な事業環境悪化は懸念されるが……

	各製品に関する当社の考え
ワイヤー(装置)・ ソーワイヤ(部材)	来年度以降シリコン不足解消に伴う太陽電池過剰供給→価格下落が予想され、その影響をある程度受ける可能性はあるが、世界的な太陽電池需要拡大に連動し、国内外とも中期的には堅調に推移するものと考える。
エレベーターロープ	<ul style="list-style-type: none"> ・国内は新設需要は低迷の可能性あるが、交換需要は底堅い。 ・海外は中国の新設需要が不動産バブル崩壊により一時的に低迷の可能性はあるが、潜在的な成長力は高く、将来はロープ交換需要も発生。東南アジアの交換需要も期待。
タイヤコード	<ul style="list-style-type: none"> ・取替需要比率高いが(約6割)、新車用は減少必至で動向注視。 ・海外は道路インフラ整備により、需要は確実に増加。
橋梁用ケーブル 落石防護工	<ul style="list-style-type: none"> ・国内・海外とも経済対策による道路整備・防災工事の予算拡大の可能性あり。 ・当社技術が評価され、海外引き合い増加傾向。

ワイヤソーの事業展開

国内販売 好調（09/3期 対前年倍増の見通し）

ワイヤソー国内販売台数
 （08上=1）

08上	08下	09上	09下
1	2.0	3.6	3.1

中国での事業（フェローテック社との事業提携）

- ・「上海漢虹東綱貿易有限公司」（資本金2億円 当社出資比率51%）を設立、ワイヤソーの販売・メンテナンス・部品供給を行う。
 （08年8月営業許可取得）
- ・東綱機械（当社子会社）のライセンスにより、上海漢虹精密機械（フェローテック子会社）でワイヤソーを製造し、供給する。

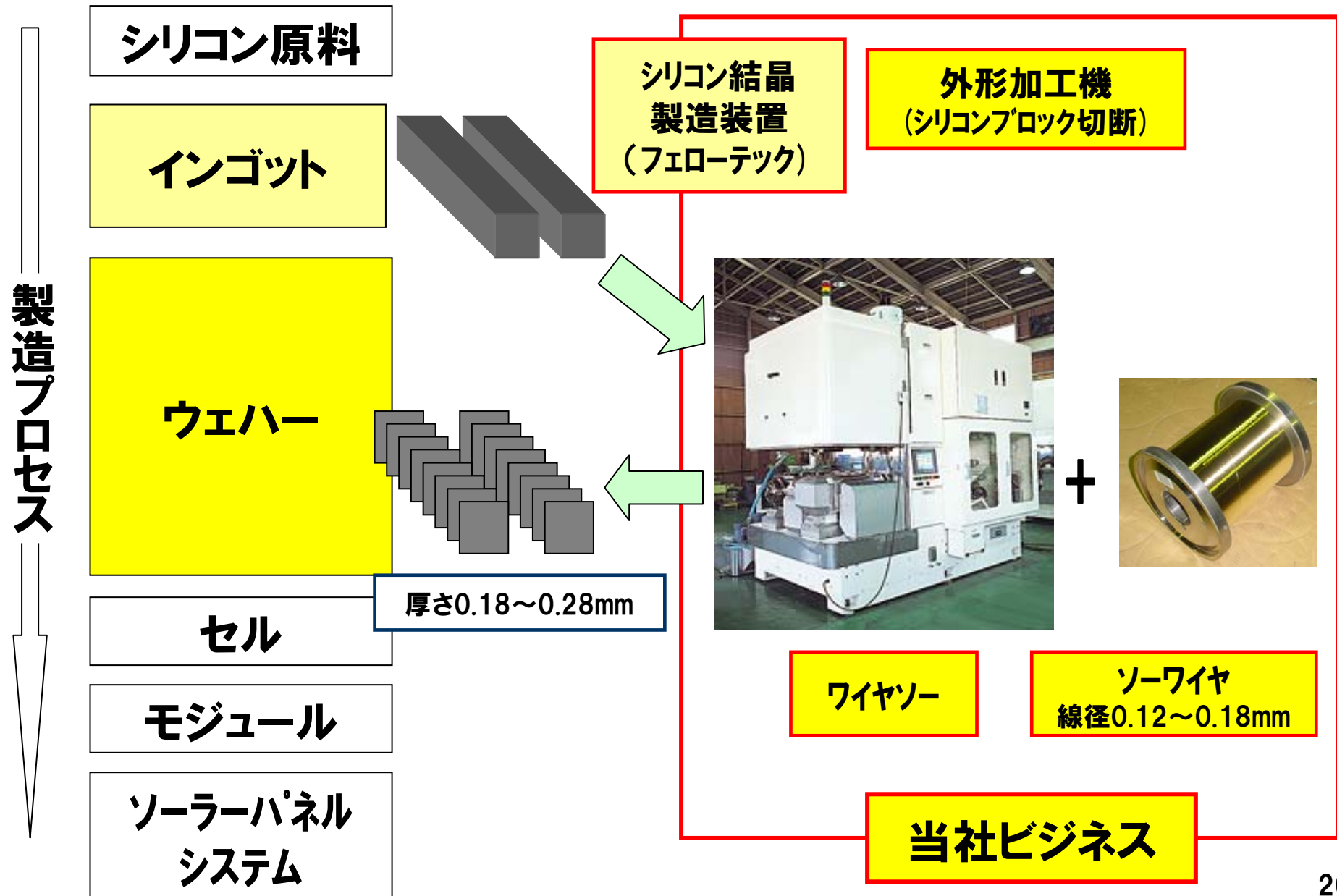
当社メリット

- ・中国における製造拠点確保
- ・シリコン結晶製造装置と連携した営業
- ・中国におけるソーワイヤ事業との連携

現状

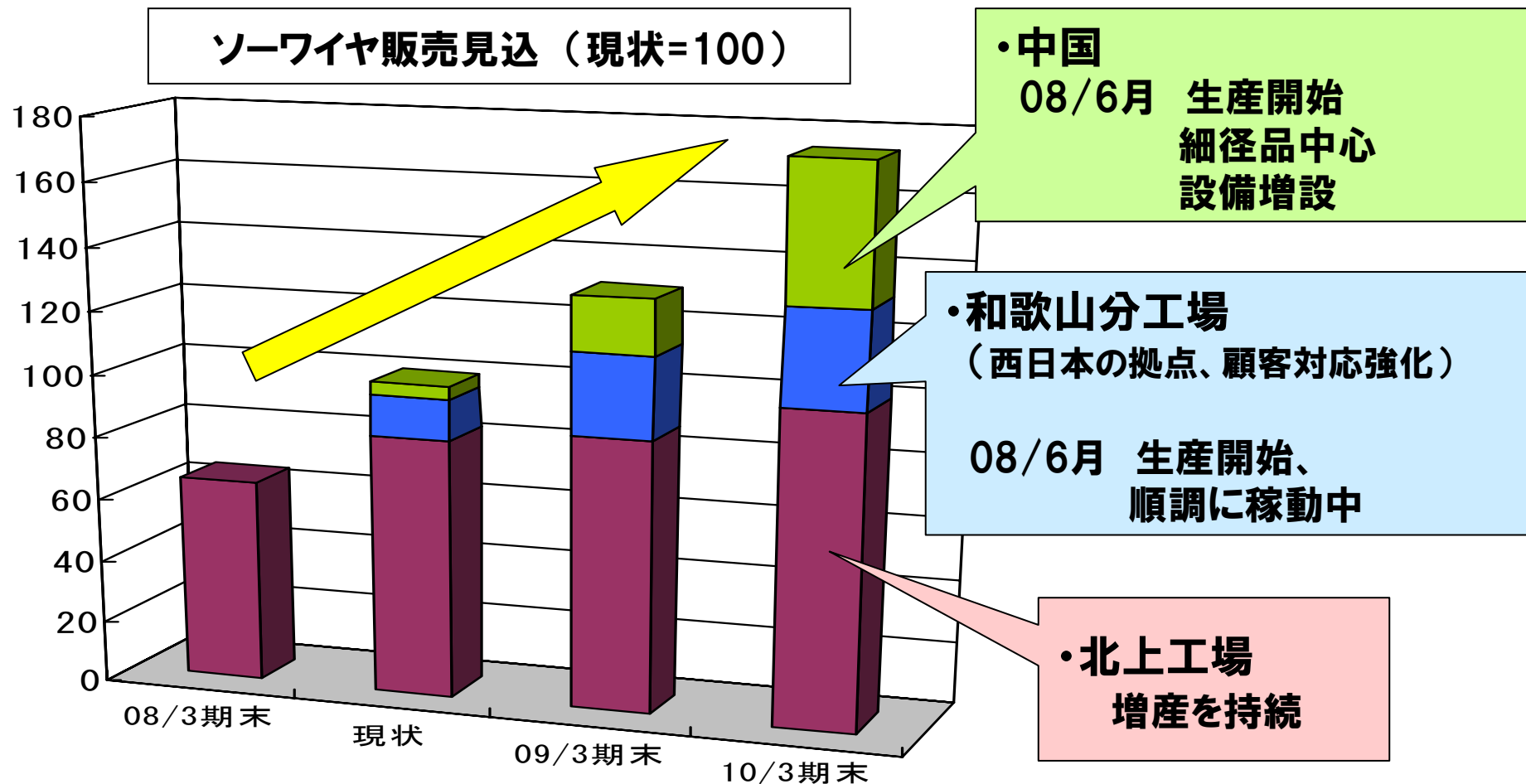
- ・中国での顧客認証取得中
- ・顧客からの引き合いは旺盛

太陽電池関連ビジネス: 当社の位置付け



ソーワイヤの増産状況

シリコン不足も解消し、太陽電池市場更に拡大
3拠点体制で増産を図る



海外ビジネスの現状① 中国・スチールコード

中国工場(江蘇省・常州)

現状

- **タイヤコード**
月産1,500トンの当初目標 9月に達成
高付加価値タイヤ向けコードへのシフト検討中
- **ソーワイヤ**の製造開始(08年6月～)
需要増に対応し、生産設備増強を実施(09年1月～)

海外ビジネスの現状② ベトナム・ロープ

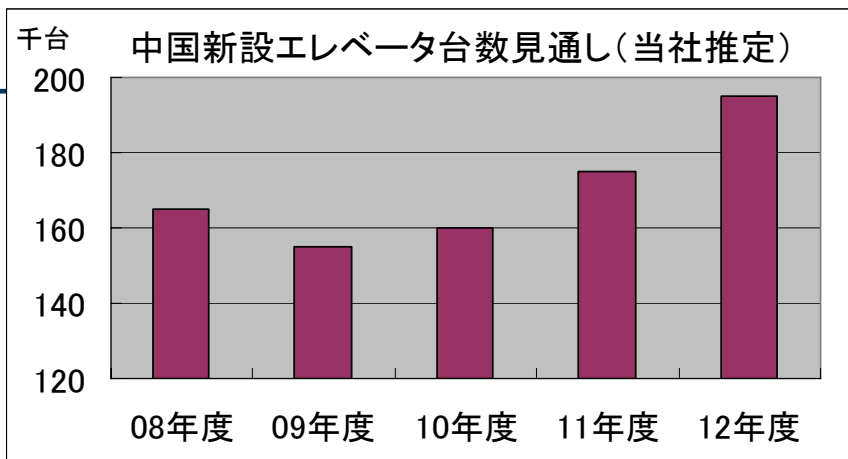
東京製綱ベトナム

08年7月：フル生産体制に（月産175トン）

現状

- 中国のエレベータ新設需要
短期的には減少の可能性もあるが、潜在的な成長力は強く、交換需要増も期待
- 東南アジア地域の交換需要にも対応

→ 第二期増産体制へ（月産350トン）・・・2008年5月着手、2009年4月立上げ目指す



研究開発の動向

ロープ部門で新商品・新技術を開発

1) 極限耐久性の追求

- ① ロープ疲労のメカニズム解明
- ② 樹脂との複合化による長寿命化
- ③ 撚り線体への『弾塑性FEM』や『3D・ベクトル解析』適用

2) 新素材の開発

- ① ワイヤロープ技術と繊維ロープ技術を融合させた「ハイブリッドロープ」の開発
- ② CFCC(炭素繊維ケーブル)の新用途開発

3) 『非破壊検査法』の開発

- ① 重要ロープの常時モニタリング・システム『SEMSOR』高性能化
- ② ワイヤロープテストの商品開発

4) 新製造プロセス技術の開発

ロープ・ワイヤの製造工程に新技術を導入し、製造工程を効率化

アメーバ経営が始動(08年4月～)

ロープ・ワイヤ部門で展開中、全組織が連動して利益を追求

手法

- ・販売・生産現場を小単位(アメーバ)に分割、それぞれの収益(一人一時間当り収益)を算出する
- ・各アメーバ毎が前月予定と実績の分析と、当月予定の立案を行うことでPDCAを回す

特徴

- ・収益の細分化により、問題の所在が明確になる
- ・前工程/次工程、営業/現場の連携強化
- ・所属するアメーバの収益に関心を持つことで、全員に採算意識が芽生える

期待される効果

全員参画、ターゲットの明確化、人材育成
意思決定→アクションのスピードアップ

中計『ステップアップ8・7』達成に向け、着実に進展

1. 成長・拡大への投資を継続する

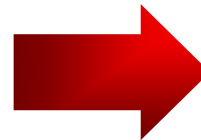
2. 競争力強化を更に徹底する

「8」 売上高の拡大(10/3期の売上高800億円以上)

→ 09/3期に前倒し達成見込 (鋼索鋼線が計画を上回り拡大)

「7」 収益力の強化(10/3期の売上高経常利益率7%以上)

	08/3期 実績
売上高	784億円
経常利益率	4.3%
自己資本比率	40%
有利子負債	224億円



「ステップアップ8・7」	
10/3期目標	
売上高	800億円以上
経常利益率	7%(56億円)以上
自己資本比率	45%以上
有利子負債	200億円以下

09/3見通し
860億円

「安定的」な株主還元を継続

現中計の配当性向30%(～10年3月期)を想定

自社株取得も機動的な資本政策を遂行するための選択肢

	08年3月期 確定	09年3月期 予想
通 期	2円50銭	未定
配当性向(連結)	33.4%	—

ご注意

- 本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
- 本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

東京製綱株式会社

2008年11月